

令和2年度授業改善推進プラン

- (取り組み内容)
- ・毎学期の終わり、自分の担当(各学年ごとに項目だて)の授業に関して作成する。
 - ・本年度の自己の研修課題に関連し、自己の授業を分析し課題を見いだす。
 - ・見いだされた課題に対し改善プランを立て、指導方法の工夫・改善を図る。
 - ・学期の終わりに検証を行い、来学期につなげていく。

教科名(理科) 教科担任名 川畑 喜照

★教科・観点について
期末テスト及び学期の学習状況、生徒の授業アンケートをもとに分析し記入する。＜○成果 ▲課題＞

観点	1学期		2学期		3学期		
	学年	課題分析	具体的な改善策	学年	課題分析(授業改善・プランの1次評価)	1次評価後の具体的な改善策	改善プランの評価・来年度にむけて
自然事象への関心・意欲・態度	1年	○個人や班に対しての質問に対して活発に発言しようとする生徒が多い。 ○実験や観察に意欲的に取り組んでいる。 ▲教科書などの忘れ物、課題を忘れる生徒がいる。	・実験・観察を多く行い、興味関心を伸ばす。 ・視聴覚機器を用いて興味関心を引き出す。 ・日常的なことや最先端の科学のニュースを話題にして授業で紹介し、取り込むようにする。 ・発問を増やし、発言することで自信をもたせる。	1年	▲授業始めの発問に対して答えられないことがある。行事に流されて、復習確認ができていないときがある。 ○実験・観察は積極的に取り組んでいる。 ○少し落ち着かない生徒もいるが、指示は聞けるようになった。 ○班で考えて発表するときに、積極的である。	今後実験・観察を多く行うようにし、興味・関心を伸ばす。 日常的なことや最先端の科学のニュースを話題にして授業に取り込むようにする。 生徒が応えられるような発問を増やし、多くの生徒が発言することで、自信をもたせるようにする。	
	2年	○実験や観察は積極的で、丁寧に行おうとする生徒が多い。 ▲質問に対して積極的に答える生徒に限られている。		2年	○授業態度は、意欲的で雰囲気良く授業が進められる。 ○実験の準備・片づけはきちんと行っている。 ▲発言や発表に対して消極的である。		
	3年	○チャイム前に授業の準備ができている。 ○ほとんどの生徒が課題によく取り組み、忘れ物が少ない。 ▲計算的な問題に対して苦手意識があり、消極的な生徒がいる。		3年	▲授業態度は落ち着いており、よく説明は聞いている。 ○実験の準備・片づけはきちんと行っている。 ○類杖をついたり、うつ伏せになったりする生徒がいなくなった。		
科学的な思考・表現	1年	○植物の種類や体のつくりについて、観察結果から結論に向けて考えることができた。 ▲科学的な思考で問題解決を図るのが難しく、個別の支援が必要な生徒がいる。	・実験や観察結果から共通点と相違点を見つけたり規則性を見いだしたりするようにする。 ・科学的現象を例をあげて説明することで、関連付けて考えられる力を伸ばすようにする。	1年	○実験結果に対して意欲的に思考しようとする生徒が増えた。 ▲科学的な思考の発問に対して、思い付きで発言する生徒が多く、論理的な表現ができなかった。	科学的な思考・表現力を身に付けるためには、より多くの実物に触れさせることが望ましい。中でも身近な物に触れさせることが大切なので、資料を活用(視聴覚教材を含む)した授業を行う。 実験・観察後にどうしてそうだったかを考えさせ、発表させるようにする。	
	2年	○思考的な問題において、筋道を立てて説明することができる生徒が増えた。 ▲初めての思考問題や応用問題に苦手な生徒が多い。		2年	○動物のからだのしくみはよく理解できていた。 ▲段階的に考える回路の電流や電圧の求め方が不十分な生徒が数名いる。		
	3年	○実験や観察結果からどのようなことがわかるか、説明できる生徒が出てきた。 ▲どのように考えるか、自分の考えを論理的に説明(表現)するのが難しく、個別の支援が必要な生徒が		3年	○遺伝・自然界の生物と物質のつながりは、理解している。 ▲自分の考えを表現することが苦手な生徒が多い。 ▲科学的に考えようとする姿勢が低く、思考力を伸ばせなかった。		
観察・実験の技能	1年	○顕微鏡の扱いやガスバーナー観察器具の扱いを習得することができた。 ▲観察したことをスケッチすることが苦手な生徒がいる。	・実験の方法や手順を全ての生徒に理解させ、班の中で分担、協力して実験が行えるようにする。 ・体験できることは、全員が行うように声をかける。 ・技能テストを全員に行う。	1年	○班での実験では協力して行なえるようになった。 ○器具の扱いは確認しながら身につけてきている。 ▲実験は進んで行いが、自分で考えて行えていなかった。	実験の技能を身に付けるには、できるかぎり分担して、一人一人が自分の手や目で実験観察を行い、を傍観するだけの生徒がいないようにする。声をかけないと、何もやろうとしない生徒がいたり、一部の生徒だけで進めてしまう傾向があるので、分担したり交代したりできるように繰り返し声をかけるようにする。	
	2年	○加熱実験の方法など手順よく実験ができる。 ○班で協力して実験を進め、片付けも協力してできている。 ▲ガスバーナーの使い方が苦手な生徒がいる。		2年	○実験の説明をよく聞き、スムーズに行うことができた。 ▲実験の結果をまとめることができるが、半数の生徒に考察力が少し不足している。		
	3年	○班で協力して実験を進め、いい雰囲気で行えている。 ▲実験を交代で行うようにしているが、一部の生徒に見ているだけの生徒がいる。		3年	○実験は、手順良く時間内に行うことができた。 ▲班で協力して行うことができるようになったが、一部にまったくやらなかった生徒がいる。		
自然事象についての知識・理解	1年	○植物の体のつくりや光合成や呼吸について理解することができた。 ▲前時の既習内容の質問に戸惑う生徒がいる。	・毎時間、前時の振り返りや、既習内容の復習を行うことで関連づけ、理解しやすいようにしていく。 ・新しい内容など、重要事項を単元の終わりににはもう一度確認して、定着の確認を行うようにする。 ・3年間の総復習問題を定期的に授業で行ったり宿題で行ったりする。	1年	○授業中は、光の作図や圧力の大きさを求めることができるようになった。 ▲テスト形式で行うと半数の生徒ができておらず、定着が図れなかった。	授業で既習の学習内容を質問し、繰り返し思い出させて知識・理解の定着を図る。 多くの問題に取り組めるようにプリントや問題集を活用し、定期的に学習の仕方を確認する。 定着が不十分な生徒は、放課後や考查前に補習を行い反復的な学習に取り組ませる。	
	2年	○身近で起こっている化学変化に対して理解が深まった。 ▲長い文章問題になると文章を読み取って適切に答えられない生徒がいる。		2年	○身近な動物の分類や生活のしかたの理解が深まった。 ▲電流・電圧・抵抗の関係は、多くの問題に取り組むことができなかった。		
	3年	○生物の遺伝についての理解が深まった。 ▲仕事、エネルギーの値を正確に求められない生徒がいる。 ▲前年度の既習内容を忘れていた生徒が多い。		3年	○授業中は、天体に対しての知識が深まり、身近な環境の変化につながられた。 ▲自分で反復学習できず、定着させることができなかった。		
授業改善の検証方法	実験や観察を多く行い、興味関心を伸ばし、実際に手にしたり自分の目で確認したりすることで理解の向上を図る。 学習内容の復習の質問や小テストを行い、反復学習することで知識・理解の定着を図る。 実験・観察、板書、教科書、まとめプリント、解説と生徒が整理して学習できるように授業を進める。						
研修課題(キャリア教育に関連した教科としての取組)	研修課題に対する教科としての具体的な実践方法	1学期の成果と課題	1学期の結果を踏まえた具体的な実践方法及び追加内容	2学期までの成果と課題	1年間の成果と今後の課題		

<p>・人間関係形成能力 ・社会形成能力</p>	<p>班で分担協力して実験を行うようにする。班での教え合い学習など、お互い学びあったり、また自分の考えを相手に伝える機会を意図的、効果的に設定していく。</p>	<p>○授業の準備と作り、実験観察の積極的に行っている。 ○理科の授業に興味関心をもって受けている生徒が多い。 ▲積極的に自分の考えを述べて班内で活発な討議ができるようにすることが課題である。</p>	<p>授業で大事なポイントが生徒に解るように工夫し、学習内容が定着するように、授業の始めに必ず前時のポイントの質問を行うようにする。家庭学習による復習・確認をしてもらうように指導する。</p>	<p>授業の始めに、前時の復習の質問をすることで、生徒が意識して覚えてくるようになり、知識理解の定着が見られた。学年により発表時の声が小さく、表現することに課題がある。クロームブックを活用していきたい。</p>
------------------------------	--	--	--	---